

藤本蚕業デジタルコモンズ

藤本蚕業歴史館へのいざない

～藤本蚕業歴史館と所蔵史料の紹介～



藤本蚕業デジタルコモンズ

<https://d-commons.net/fujimoto-dc/>

ネットで御覧いただけます

令和4年度長野県地域発元気づくり支援金事業

「藤本蚕業資源活用事業」

2023年3月31日

藤本蚕業プロジェクト

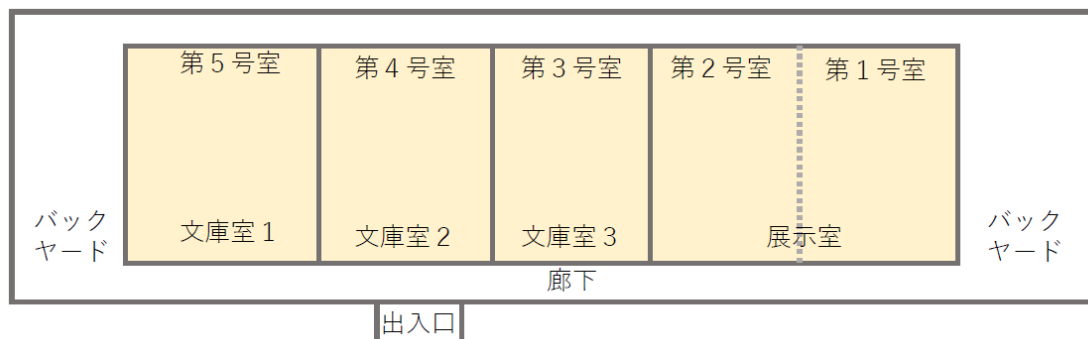
(事務局：長野大学前川道博研究室)

1. 藤本蚕業歴史館、歴史のタイムカプセル

「藤本蚕業歴史館」は、蚕種製造業を営んでいた企業「藤本蚕業」（1908年～、後に藤本工業）の社屋2階に開設された文書館（アーカイブス）兼展示施設（ミュージアム）です。文書館機能と展示機能を併せ持つ施設であることから「歴史館」と名付けました。2009年10月に開設しました。



藤本蚕業社屋は1927年(昭和2年)に竣工した歴史的建造物です。2階には蚕種製造を行う蚕室が5室(第1～5号室)ありました。現在はこれらの5室と廊下の一部を文庫室兼展示室として利用しています。



1962年、藤本蚕業は藤本工業に社名変更し、1966年には蚕種製造を廃止しました。その

後、藤本蚕業の社内文書、所蔵文庫等は、社屋2階などに廃棄されることなく残り、それらが藤本蚕業歴史館の所蔵資史料となりました。



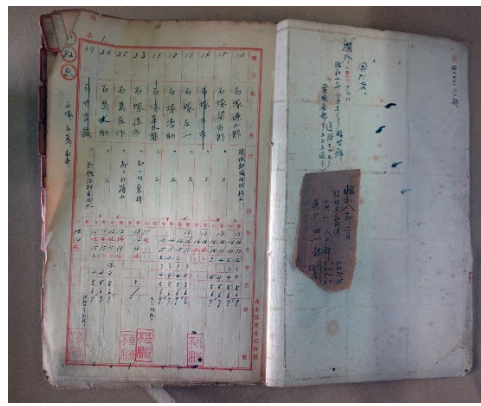
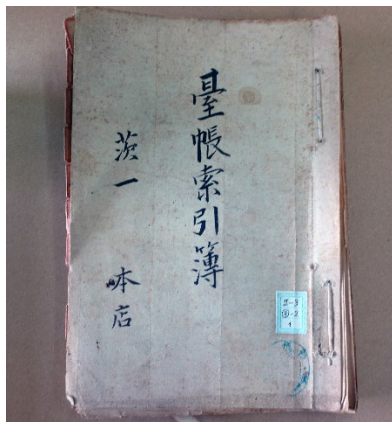
各部屋と廊下には文書単位に史料 ID を付与して整理した史料が収納されています。



書庫には袋詰めされた文書が収納されています。文書の配置は書庫1から33に分け、『史料目録』に収録された分類の順番に従って収納されています。数十年の時を超えて社屋がタイムカプセルとなり、通常であれば、廃棄されたりして後に残ることがなかった雑多な資料群が現代に残されたことはかけがえのない「歴史的証言のタイムカプセル」です。



それぞれの文書には史料 ID のラベルが貼られ、目録化されています。



2. 埃まみれのゴミの山から救済された史料たち

藤本蚕業の社屋等に埋もれていた未整理の文書群が日の目を当てられたのは21世紀に入ってからのことでした。藤本工業から上田小県近現代史研究会に所蔵史料の整理の依頼があり、2003年8月から整理が始まりました。写真は史料の整理作業を記録した今となつては貴重な作業風景です。それから約6年の作業期間を経て2009年9月、目録完成に至り、10月、藤本蚕業歴史館が開設されました。



2009年10月3日、蚕都上田プロジェクト主催による「蚕都上田お宝発見2009／蚕都上田展巡回ツアー」で藤本蚕業歴史館が社会に披露されました。



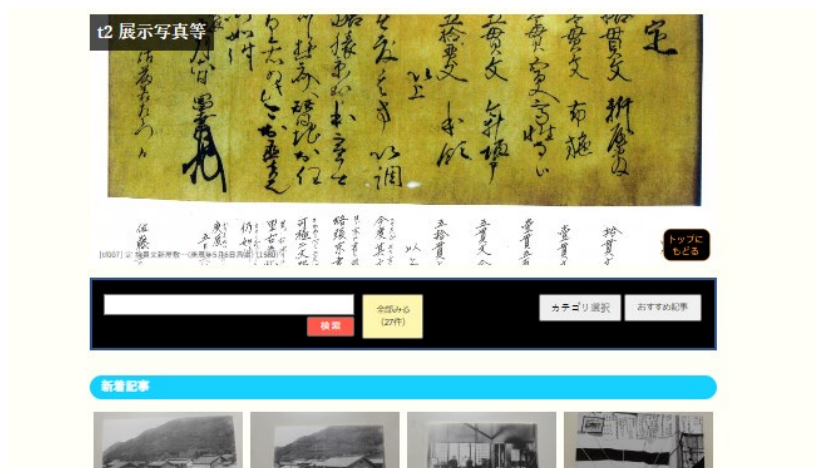
ちなみに2009年は、上田町が市政を施行してから90周年、横浜港の開港から150周年になります。日本一の蚕種製造地であった上田小県の蚕種、とりわけ藤本蚕業は日本の蚕糸業の発展に大きく貢献しました。日本の生糸は横浜から欧米に輸出され、貿易の主力商品となりました。蚕糸業の中心地であった上田小県が「蚕都」と呼ばれるようになった時期が市政施行の頃に当たります。

『藤本蚕業歴史館史料目録』は、藤本蚕業歴史館の1万点を超える収蔵史料を目録化した貴重な情報源です。その後2023年まで約14年が経過しました。



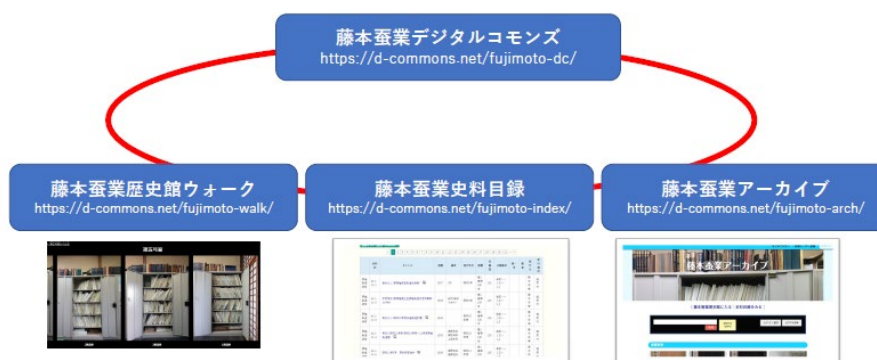
しかし、藤本蚕業歴史館はその後、展示室を見学を訪れるケースは時折りあっても、所蔵史料が閲覧・研究に供される機会は極めて少なく、開設から約14年間にわたり、さらなるタイムカプセル化の状況に置かれ続けてきました。

3. これからの時代に活かす情報源



現代はデジタル化社会と言われています。デジタル化は単なる技術的潮流ではなく、世界全体を支配してきたマスコミュニケーション（知識消費）型社会が知識循環型社会に大きくパラダイムシフトする数百年単位の大規模な転換点と言われています。大量の複製物（書籍）の配布を可能にした活版印刷術の発明者グーテンベルク以来、500年来の大変革とも言われています。

紙がデジタルメディアに替わり、それまで局所に埋もれていた一次資料がデジタル化されネット公開されて、世界中の誰もが藤本蚕業歴史館の所蔵史料をいつでもどこでもだれでも可能にする社会状況に一変してきました。



『藤本蚕業デジタルコモンズ』は、世界中で忘れられてしまった蚕糸業、とりわけ蚕種製造業、その代表的企業であった藤本蚕業、そしてその中心地である上田市上塩尻を、子どもから高齢者まで、また、日本人であるか否かを問わず世界的視座から捉え直す新しい時代の情報資源です。

藤本蚕業プロジェクト（2022年～）は、先人たちが残してきた偉大な業績（蚕種製造

業)、それを記録した膨大な知識資源(所蔵史料)、所蔵史料を整理し目録化した情報源を全て受け継ぎ、子どもからお年寄りまで誰もが情報源にアクセスできる「知識循環型社会」の新たな情報源となります。

藤本蚕業歴史館所蔵史料は、多くの方にとっては全く関心が向かわないものです。しかし現実にはここにこのような資料の存在があることを誰も知りません。ましてや実際に史料を手にとってみた人もいません。藤本蚕業歴史館を見学に訪れた方の殆どは展示物を見るのみで、書庫の史料は見ることもありません。



これらの史料は面白いのかつまらないのか。若い世代には興味をもてるのか。2022年、長野大学の前川ゼミの学生が被験者となって、史料を手にとってその内容を見てみました。その結果はつまらないどころか、学生それぞれにとって全く初めて知ることになった「興味津々」の情報源でした。

ある学生は、たまたま手にした史料には社員の保険に関する情報が記録されており、近代の保険制度のことや保険会社の盛衰などがうかがい知れる情報源となっていました。ある学生は、藤本蚕業の分場の史料に接し、上田の蚕種製造業者が奄美大島など全国に蚕種製造の生産拠点を持って蚕種整合業を営んでいたことを知りました。

これまで一歴史は教科書や書物にまとめられたもの(物語られたもの)、歴史研究家が研究成果を披露するもの、つまり二次資料でした。誰もが一次情報にアクセスできず、あるいは一次資料から歴史を紐解く経験をする事のなかったこれまでの社会(知識消費型社会)と異なり、子どもからお年寄りまで誰もが一次資料にアクセスできる社会(知識循環型社会)に今まさに変わりつつあることを学生たちが伝えています。

これらの史料にアクセスすることは、単に「歴史を学ぶため」のものではなく、自分の興味関心をそこから引き出すことに他なりません。

今学校では、児童生徒が一人一台タブレットを持って、主体的で探求的な学習ができる「学び環境」に変わってきました。児童生徒にとって、地元や昔の社会を探ることのでき

る一次資料が学校の教室や自宅から取り出せると、自分の探求的な学習のこの上ない学び環境になります。学校の先生たちもそれを使って、児童生徒が地域学習できるように学習支援することができます。

地域づくり活動、社会活動などにおいても、地元にはかない情報源がどこからでも自由にアクセスできる情報環境があれば、その計画や探求に活かしていくことができます。

生涯学習の観点からは、これまで他者が執筆・編纂した知識から学ぶだけでなく、自分自身が一次資料に触れて、そこから歴史などの検証をしたり、新たな歴史（歴史とは物語られたもの）を作り出す情報源となります。

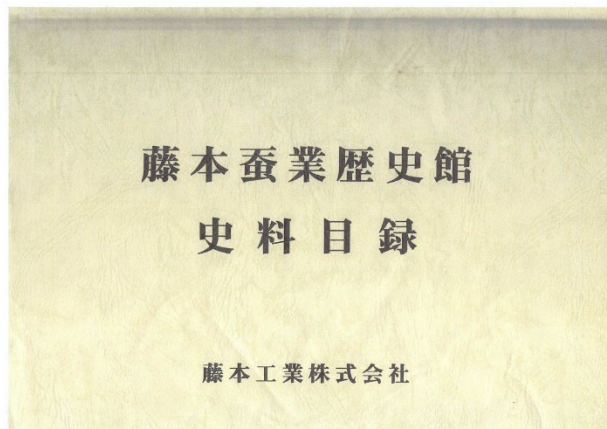
それでは、藤本蚕業歴史館所蔵資史料にはどんなものがあるのか、どんな情報源となるものなのかなどを『藤本蚕業アーカイブ』を参照しながら具体的に見ていきましょう！

4. 『藤本蚕業史料目録』『藤本蚕業アーカイブ』

『藤本蚕業デジタルコモンズ』(<https://d-commons.net/fujimoto-dc/>)の各サイトに収録した史料データは『藤本蚕業歴史館史料目録』を底版としています。

★藤本蚕業史料目録

2009年に刊行された『藤本蚕業歴史館』（編集：上田小県近現代史研究会、発行者：藤本工業株式会社、全520ページ）を底本とし、全面的にテキストコード化したデータをネット上で検索できるデータベースに一元化し収録しました。



<https://d-commons.net/fujimoto-arch/?c=&p=18970>

藤本蚕業 史料目録 はじめての方へ | 新規ユーザー登録 ログイン

並び替え:

登録リスト (該当: 11341件)

< 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 ... >

史料ID	タイトル	西暦	備考	発行年月	配置	目録頁	分類番号	巻・号	著者	発行元	発行場所
原簿製造網笥 811-11-1	裏紙なし(原簿製造網笥複製表) 	1927	3枚	昭和2年	第1巻第1段右	126	原簿1-1①-1,1			藤本工業	僅売行
原簿製造網笥 811-11-2	参考様式(原簿製造立原簿製造予定計画表他多数)	1928	6枚(雑多な史料)	昭和3年	第1巻第1段右	126	原簿1-1①-1,2			藤本工業	僅売行
原簿				...	第1		原簿1-			藤	僅

<https://d-commons.net/fujimoto-index/>

5. 『藤本蚕業アーカイブ』 カテゴリ

『藤本蚕業アーカイブ』には、藤本蚕業歴史館所蔵史料、展示物のデータが多数収録されています。これらの資史料は次のように大きく分類整理して収録してあります。

t1 展示パネル	t2 展示写真等	t3 展示物	a1 文書/戦前/製造	a2 文書/戦前/営業	a3 文書/戦前/会計	
a4 文書/戦前/分場	a5 文書/戦前/土浦	a6 文書/戦前/その他	b 文書/戦後	c1 書籍	c2 雑誌	
c3 新聞	c4 その他	d 図書/宗家	e 一紙文書	f 文書/宗家/近世	g 文書/宗家/近代	h 追加分
p プロジェクト記録						

【t:展示物】 館内に展示したパネル等の展示物

t1 展示パネル t2 展示写真等 t3 展示物（蚕種製造の道具類等）

【a:史料（藤本蚕業・戦前期の文書）】

a1 文書/戦前/製造 藤本蚕業(1908～)戦前期のうち蚕種製造の「製造」に関する文書

a2 文書/戦前/営業 藤本蚕業(1908～)戦前期のうち蚕種製造の「営業」に関する文書

a3 文書/戦前/会計 藤本蚕業(1908～)戦前期のうち蚕種製造の「会計」に関する文書

a4 文書/戦前/分場 藤本蚕業(1908～)戦前期のうち蚕種製造の「分場」に関する文書
「分場」とは蚕種製造の委託先

a5 文書/戦前/土浦 藤本蚕業(1908～)戦前期のうち蚕種製造の「土浦」に関する文書
「土浦」は藤本蚕業の「土浦支店」

a6 文書/戦前/その他 藤本蚕業(1908～)戦前期のうち上記以外の文書

【b:史料（藤本蚕業・戦後期の文書）】

b 文書/戦後 藤本蚕業(1945～)戦後期の文書

【c:書籍】

c1 書籍 藤本蚕業(1945～)戦後期の所蔵書籍

c2 雑誌 藤本蚕業(1945～)戦後期の所蔵雑誌

c3 新聞 藤本蚕業(1945～)戦後期の所蔵新聞

c4 その他 藤本蚕業(1945～)戦後期の上記以外の文書等

【d～h:その他】

d 図書/宗家 旧佐藤宗家が所蔵した図書

e 一紙文書 手書き図・地図等紙1枚の文書（大型のものが多い）

f 文書/宗家/近世 旧佐藤宗家の近世の所蔵文書

g 文書/宗家/近代 旧佐藤宗家の近代の所蔵文書

h 追加分 上記以外の追加分

【p:藤本蚕業プロジェクト等の記録】

p プロジェクト記録 藤本蚕業プロジェクト等のプロジェクト記録

6. カテゴリ「t1 展示パネル」史料から

展示パネルは所蔵史料の中でも特に注目すべき史料をセレクトしたものです。また上田小県近現代史研究会メンバーによる研究成果の一部をパネル展示しています。

[tp005] 「蚕かひの学」板木 天保 12 年(1841) (2009)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1182&p=31043>

「蚕かひの学」板木 天保 12 年(1841)

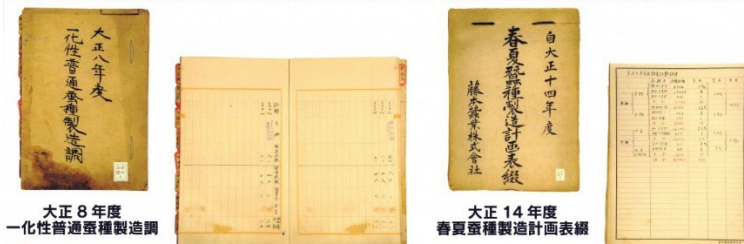


藤本善右衛門保右(やすすけ)によって著された「蚕かひの学」の板木8点。
出版が終わった板木が、著者のもとに戻され残ったものと思われる。
板木は頁ごと棹を作り文字が彫られており、棹の大きさは縦148ミリ、横108ミリで統一されている。

[tp015] 蚕糸業全体の繁栄 (2009)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1182&p=31053>

蚕糸業全体が大きく繁栄したのは、アメリカの第一次黄金時代であった。
第一次世界大戦による戦争景気により、さらにはその戦後のヨーロッパの生産力を背景にして、アメリカは大きく飛躍した。
その繁栄は女性の社会進出をもたらし、それに伴ってロングスカートからショートスカートへのファッションの変化、同時にシルクストッキングへの需要増大によって、生糸需要が大きく伸びた。
これが、日本の蚕糸業繁栄をもたらしたが、同時に蚕種製造の技術革新を要求してきた。
均一な生糸の需要に対応するため、外国種同志、あるいは外国種と日本種の交雑による蚕種製造(一代交雑種)が実験的に始まったのは、第一次世界大戦が始まった1914年であったが、その後急速に普及した。
藤本でも、これに対応した様子が史料から見えてくる。
また、風穴という自然冷蔵庫から人口冷蔵庫が作られ、一年中蚕種製造が可能になり、そこで、人口孵化という技術も開発された。
これによって、春蚕だけでなく、夏・秋・晩秋蚕の製造が可能になった。さらに、一代交雑種の製造には、雌雄鑑別の技術も生まれた。
これらに関わる史料が藤本にはあり、今では日本のここしかないという意味で、実に貴重な史料である。以下に例示する。



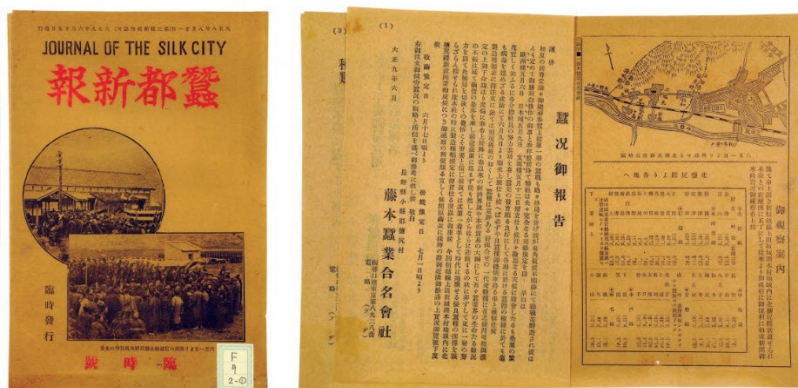
大正 8 年度
一化性普通蚕種製造調

大正 14 年度
春夏蚕種製造計画表綴

[tp021] 「蚕都新報」1920(大正9)年 (2009)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1182&p=31059>

「蚕都新報」1920(大正9)年



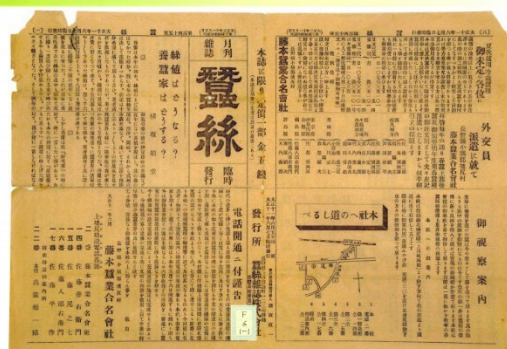
「蚕都上田」の裏付けともなる新聞・雑誌 4月号分が保存されている。
発行所 蚕都新報社(社長 橋本栄太郎)

上田が「蚕都上田」と呼ばれるようになった年代や背景の裏付けとなる情報誌。

[tp019] 「蚕糸」1922(大正11)年6月 (2009)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1182&p=31057>

「蚕糸」1922(大正11)年6月

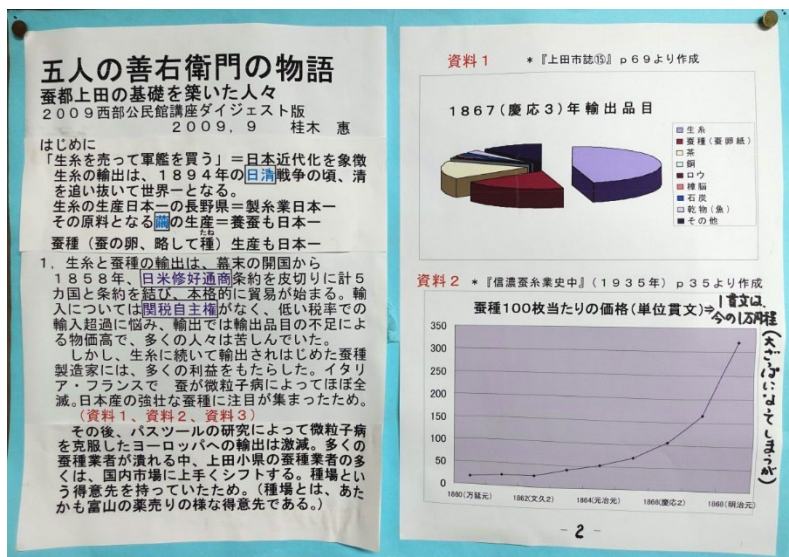


新聞形式から雑誌へ。上田市から全国に発信された蚕糸情報雑誌
創刊 1912(大正11)年ころか
発行所 蚕糸雑誌(株)(社長 松前七五郎)
編集人 猪坂直一

1912年以來上田市で発行された全国向けの蚕糸情報誌。編集人の猪坂直一は蚕種製造家でもあり、上田自由大学の中心人物の一人。

[tp024] 五人の善右衛門の物語(1)1-2 頁 (2009)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1182&p=31062>



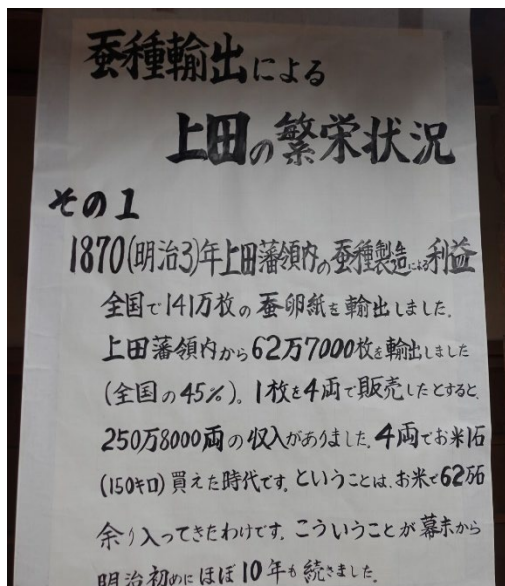
桂木恵(編)「五人の善右衛門の物語 蚕都上田の基礎を築いた人々」

藤本蚕業歴史館にポスター展示されている資料の転載。1~16頁の全文を展示。

(2009年、上田市西部公民館で開催された桂木恵氏による講座のダイジェスト版)

[tp001] 蚕種輸出による上田の反映状況 その1 (2009)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1182&p=31039>



新津新生(編)。展示室に大きく吊るされているポスター展示資料。4面を展示。

7. カテゴリ「t2 展示写真等」史料から

[tf021]藤本蚕業株式会社外観(国道 18 号線沿い)(昭和初期?)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1183&p=42403>



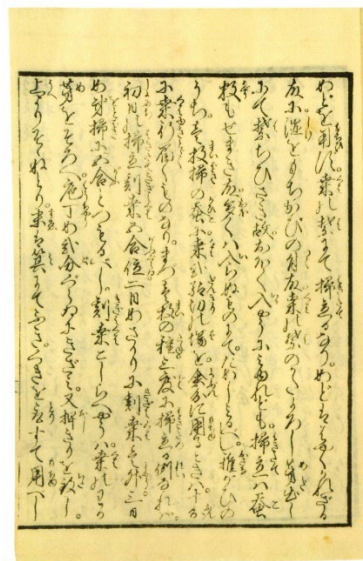
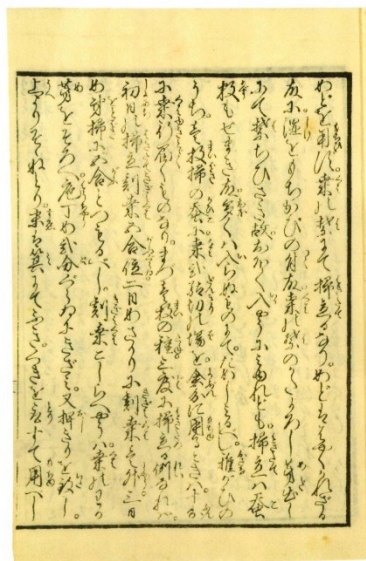
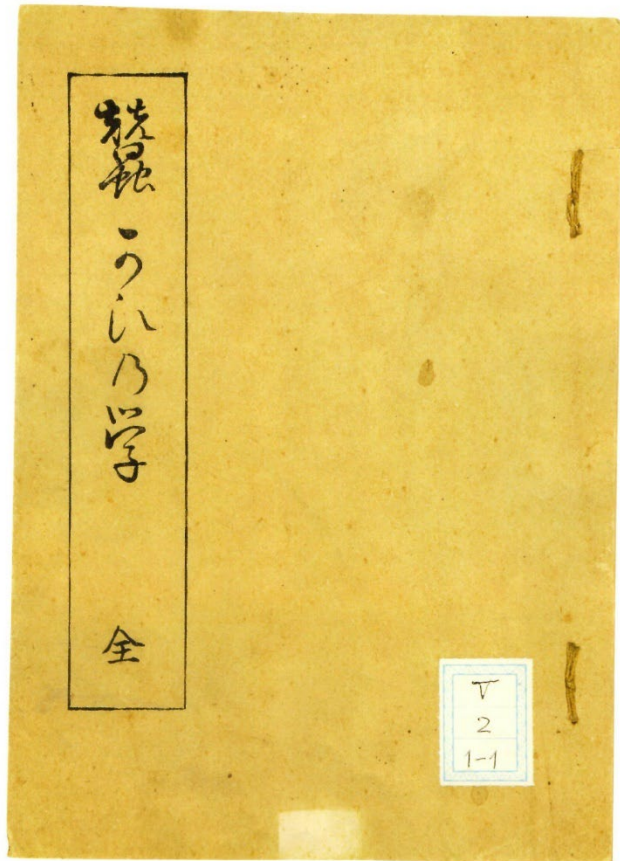
大正末か昭和初期と思われる。藤本蚕業社屋(現在の藤本蚕業歴史館の建物)が 1927 年に建築される以前の藤本蚕業の風景を記録した貴重な写真。前の通りは国道 18 号線。

[tf010]藤本蚕業株式会社創立二十周年記念産繭品評会写真帖(1928)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1183&p=42377>



藤本蚕業創立 20 周年を記念した写真帖。賞状授与式で式辞を述べる佐藤尾之七社長。



藤本善右衛門保右(やすすけ)(1793~1865)による養蚕技術書。藤本蚕業の前身は旧佐藤宗家である。保右は当時の佐藤宗家当主。蚕種業の発展に大きく貢献した。

8. カテゴリ「t3 展示物」史料から

[to027]藤本善右衛門繩葛夫妻肖像画

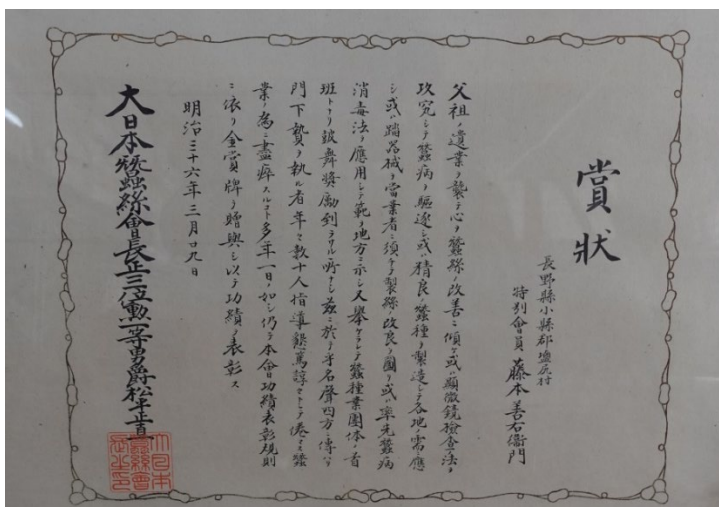
<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1184&p=42490>



藤本善右衛門繩葛(つなね)(1815~1890)は旧佐藤宗家の当主。保右(やすすけ)の後藤本善右衛門を世襲した。蚕種の新品種「掛合」を育成した他、蚕種大総代制度の大総代に選出されるなど、蚕種製造の発展に多大な貢献をした。隠居後、『続錦雑誌』を著した。

[to030]賞状 藤本善右衛門宛/大日本蚕糸会松平正直(1903)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1184&p=42485>



代々の藤本善右衛門が蚕糸業の功績に対し、大日本蚕糸会が金賞碑を贈った際の表彰状。

[to013]蚕卵台紙の変遷(2)枠製

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1184&p=42430>



微粒子病が日本でも心配されるようになって、その対策のため、一枚の台紙を 28 の枠に区切り、その上に枠を乗せ、その枠の中に蛾を入れて卵を産ませた。その枠と蚕卵台紙。

[to009]繭標本：長光×信和

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1184&p=42422>

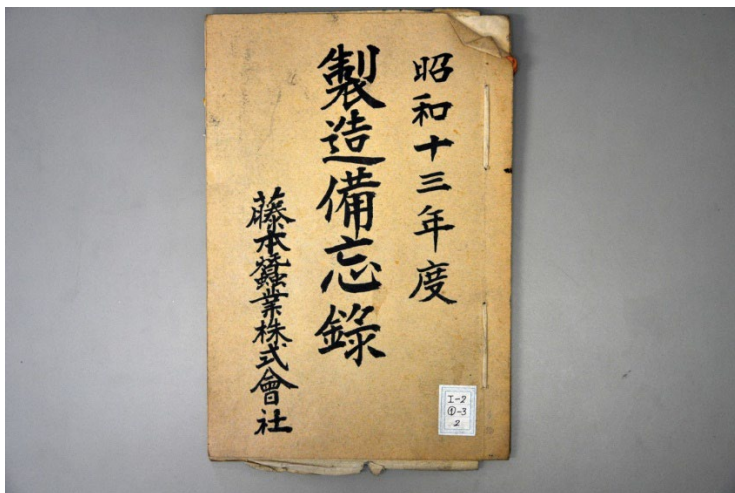


蚕種製造では繭の品質と量を向上させるため一代交雑種の技術が用いられた。長光は日本種、信和は中国種。展示室にはこの他にも異なる品種の繭標本が展示されている。

9. カテゴリ「a1 文書/戦前/製造」史料から

[a12-13-2] 昭和 13 年度製造備忘録 (1936)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1175&p=30769>



「製造備忘録」(諸々の書類を綴ったもの)は毎年度残されている。昭和 13 年度のものには、副島蚕具製造所の見積書、「昭和 13 年度販売予定数申込表」、書簡等を束ねてある。

[a12-35-1] 昭和 2 年度調消毒台帳第一号 (1927)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1175&p=30778>

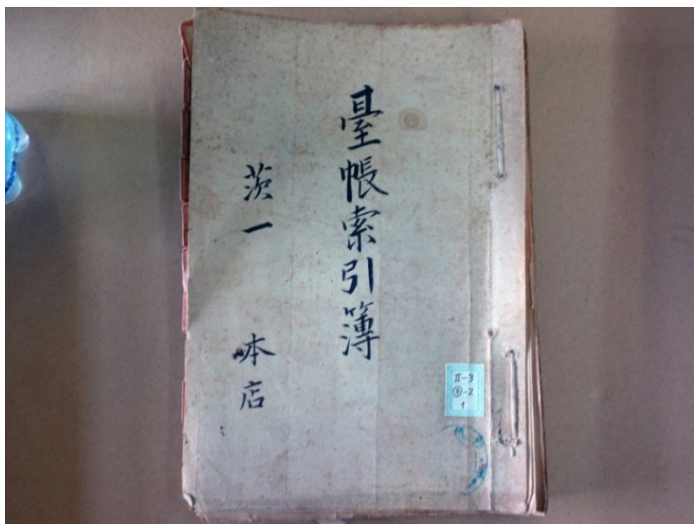


微粒子病の蔓延は蚕種製造で最も恐れられていた。そのため蚕種はホルマリン(ホルマリン)消毒が行われた。「消毒台帳」はホルマリン消毒の業務記録である。担当者ごとに消毒実績が記録されている。

10. カテゴリ「a2 文書/戦前/営業」史料から

[a23-32-1] 台帳索引簿 茨1本店 (1923)

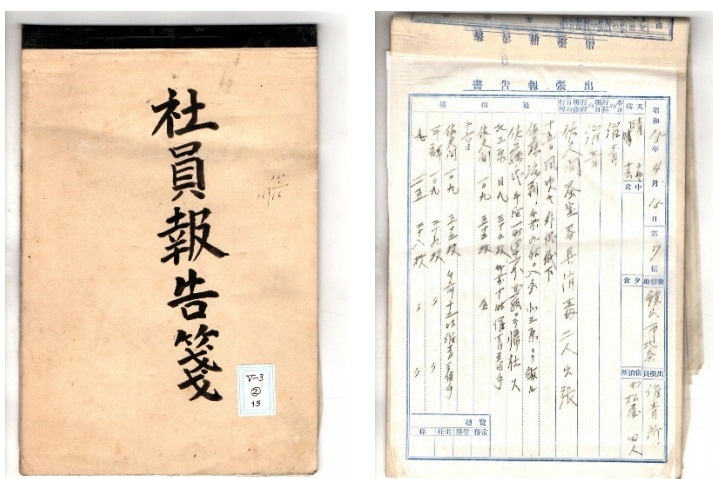
<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1185&p=30820>



「台帳索引簿」は藤本蚕業と取引のあった各県ごとの顧客台帳である。福島県、新潟県、山梨県等の台帳索引簿が残っている。茨城県は特に取引先が多く分冊になっている。「茨一 本店」は主に結城郡を中心エリアとする分冊である。

[a53-2-13] 社員報告箋(1940)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1185&p=42589>

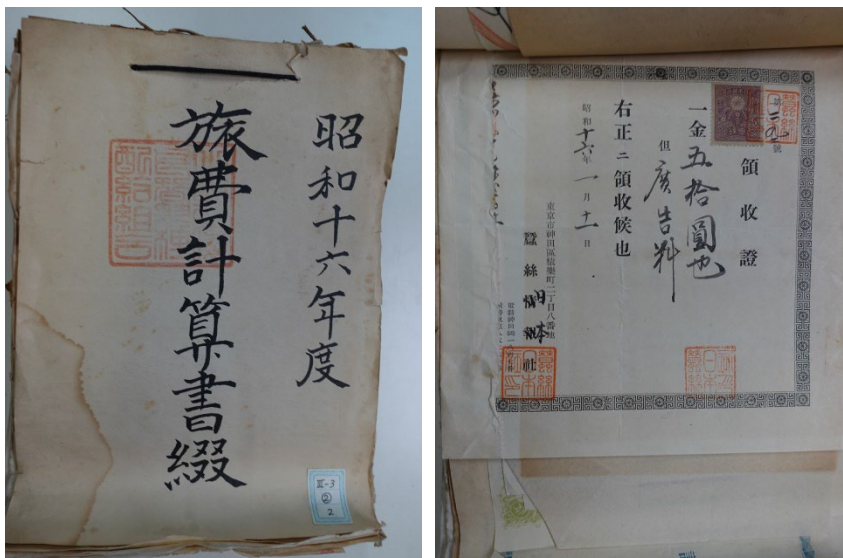


社員の出張報告書綴である。「昭和15年4月15日 発信地 飯山市北条 出張員 催青所 宿泊所 小松屋四人 本日の行程 催青 …」などと書かれている。

11. カテゴリ「a3 文書/戦前/会計」史料から

[a33-2-2]旅費計算書綴(1941)

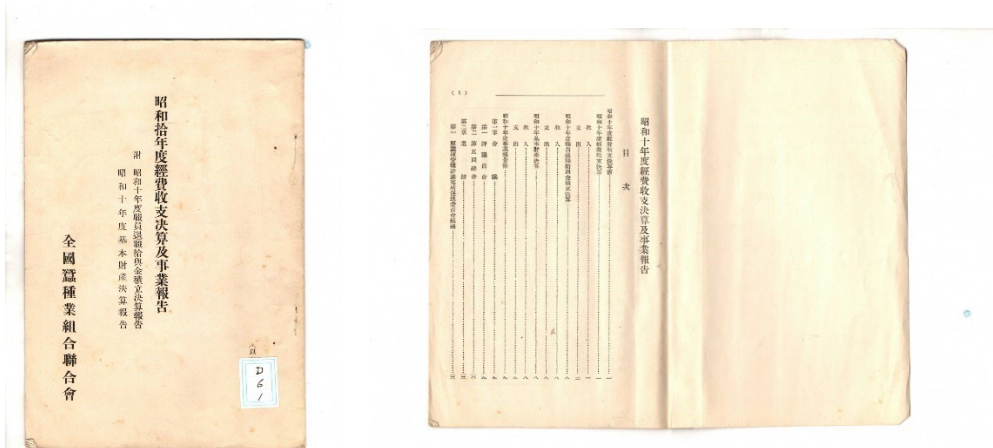
<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1186&p=42591>



その年度の旅費明細や領収証などの綴。交通費の詳細、具体的な取引の内容や金額などが詳細に裏付けられる。

[ad-6-1]昭和拾年度経費収支決算及事業報告(1935)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1186&p=54683>

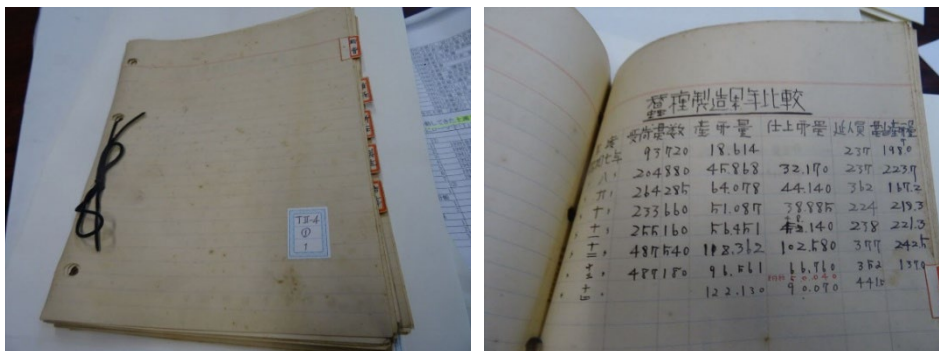


全国蚕種業組合連合会の昭和10年度の決算報告書。藤本蚕業の社内資料ばかりでなく、全国組織の関係資料も収蔵資料に含まれている。当時の業界を知る情報源である。

12. カテゴリ「a5 文書/戦前/土浦」史料から

[at24-1-1]表紙なしノート(1931)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1188&p=18945>



藤本蚕業土浦支店の関係資料の一つ。土浦支店関係の資料はその業務活動や実績が裏付けられる情報源としても貴重である。

「藤本蚕業歴史館で学ぶデジタルアーキビスト養成講座」を受講した宮坂保志さんは土浦支店の文書が特徴ある書体で書かれている点に着目したキュレーションを行った。

「みんなでつくる信州上田デジタルマップ／大正～昭和初期のタイポグラフィー」

→<https://d-commons.net/uedagaku/Yankcli5?t=227>

藤本蚕業土浦支店について

土浦支店は藤本蚕業が1924年(大正13年)に設置した支店である。藤本蚕業は土浦支店を関東方面の営業拠点として業務活動を戦後まで行っていた。

以下は前川道博が報告・取材した土浦支店関係の記録である。

「蚕都上田だより／旧藤本蚕業土浦支店の現地調査」(2016/03/16)

<https://santo.naganoblog.jp/e1887285.html>

「藤本蚕業土浦支店について 佐藤勇二さんに聞く」-YouTube (2016/01/08)

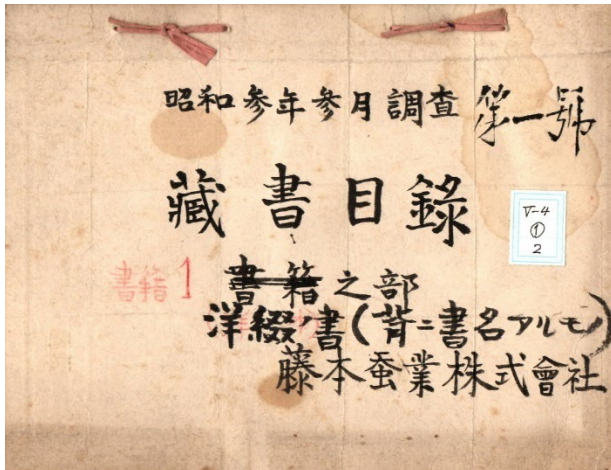
<https://youtu.be/MtUSStgpMQo>



13. カテゴリ「a6 文書/戦前/その他」史料から

[a54-1-2]蔵書目録 第1号(洋綴之部) (1928)

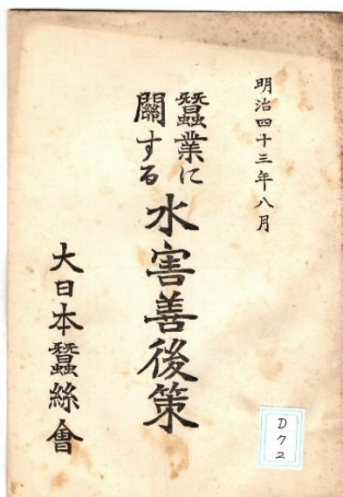
<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1189&p=42360>



藤本蚕業は自社蔵書を目録化した。社員が蚕種製造等の専門知識の修得を図ること、広く教養を身に付けることをねらいとして蔵書につとめたものと思われる。ひいてはこれらの蔵書が藤本蚕業歴史館に継承され、日本の近代をひもとける情報源ともなっている。

[ad-7-2]蚕業に関する水害善後策(1910)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1189&p=54687>

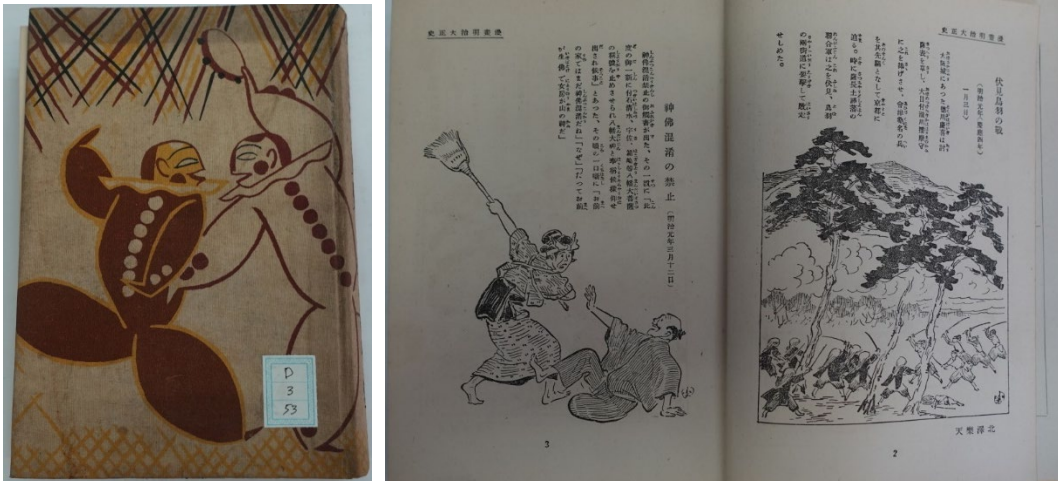


大日本蚕糸会が水害善後策を取りまとめた文書である。「此度の水害は一府十七県といふ広い区域に亘り多くは関東々北の方面に惨状を呈した」と記されている。いつの時代にも自然災害はあり、当時の水害が蚕業に多大な損害をもたらしたことを伝えている。

14. カテゴリ「c1 書籍」史料から

[cd-3-53]漫画明治大正史(1928)

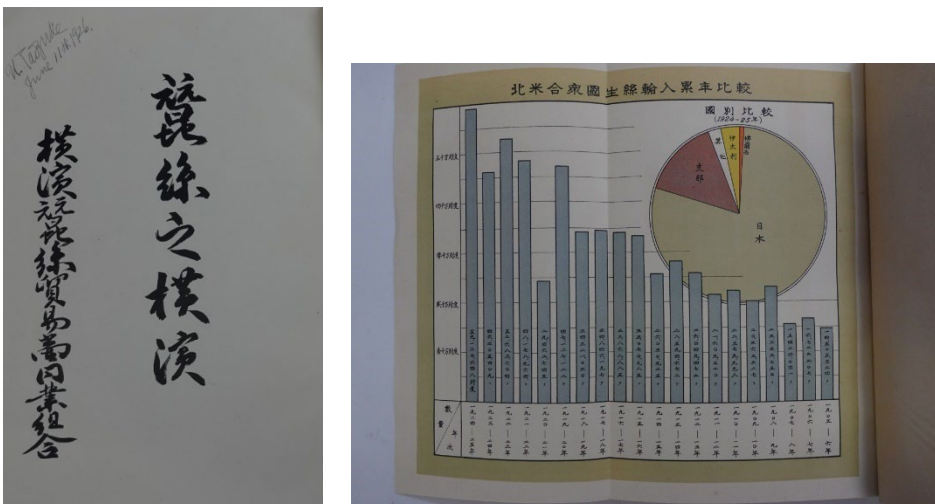
<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1177&p=42530>



代田周一著、発行元：中央美術社。明治から大正にかけての世相をよく伝えるエピソードを漫画で綴ったユニークな社会史。当時のサブカルチャーを知る情報源としても貴重。

[cj-2-230]蚕糸之横浜(1926)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1177&p=42568>



横浜蚕糸貿易商同業組合編、発行元：三秀舎(東京市)。横浜港が生糸貿易の歴史を持つ貿易港であることを要覧的にとりまとめた書籍。関東大震災(1923年)後、横浜港が復興を遂げ生糸貿易の拠点として発展していくことを伝えている。(アーカイブは一部抜粋)

15. カテゴリ「c2 雑誌」史料から

[dc-8-42] アサヒグラフ新年増刊婦人号 (1925)

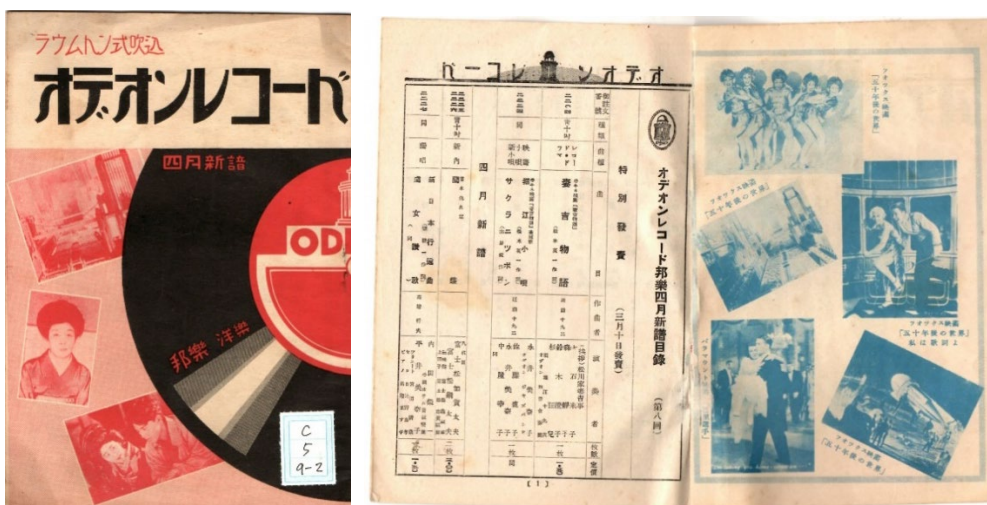
<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1178&p=31020>



大正時代のグラビア雑誌がどのようなものであったかを知る情報源としても貴重である。当時の婦人（内外の令嬢や夫人）、女性ファッションなどが手にとるようによくわかる。

[dc-5-9-2] オデオンレコード 四月新譜(1931)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1178&p=54733>



オデオンレコード邦楽四月新譜目録。特別発売『妻吉物語』『堀江小唄／サクラニッポン』、4月新譜『蘭蝶』『新日本行進曲／処女讃歌』が紹介されている。

16. カテゴリ「c3 新聞」史料から

[cl-2-1-9] 実業と観光 (1938)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1179&p=30907>



『実業と観光』は実業と観光社(長野市)が月3回発行する業界ミニコミ紙。この号(1938年11月1日)では、「皇軍武運長久祈願 長野恵比寿講大会」「飛行場の記念品 調整に意義あり」などの記事を掲載。戦争の足音が記事にも現れている。

[cl-3-11-3] 能率新報 (1936)

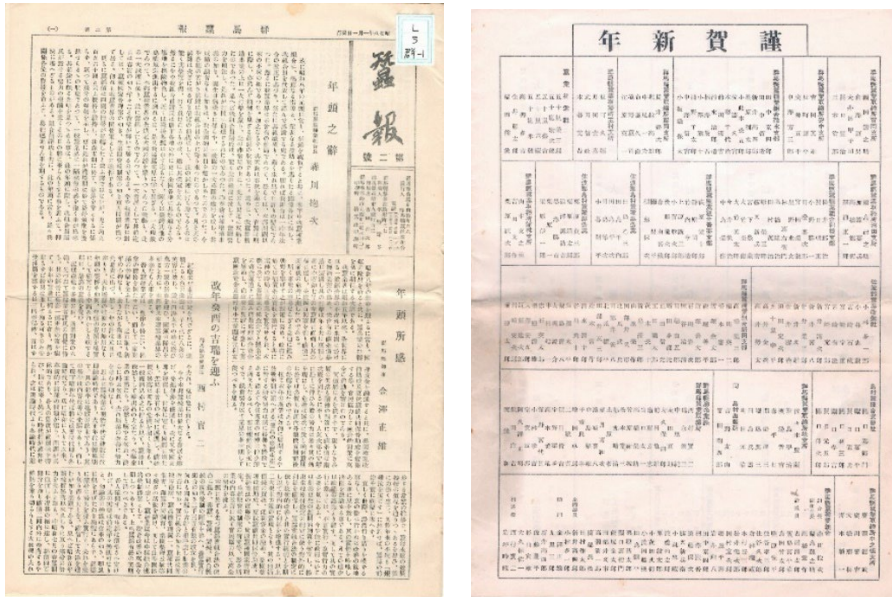
<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1179&p=30927>



阿部彰執筆編集による月刊新聞。1936年9月日号。発行部数22,000部。阿部彰の阿部商店は東京市神田区にあり、名宛印刷器を販売している。

[cl-3-群-1] 蚕報 (1933)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1179&p=30947>



1933年1月1日号。『蚕報』は群馬県蚕種業組合(前橋市)が発行する業界紙。藤本蚕業には、他県の複数の業界紙があり、各地の情報源として利用していたことがうかがわれる。

[cc-7-2] 栽桑時報(1948)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1179&p=54703>

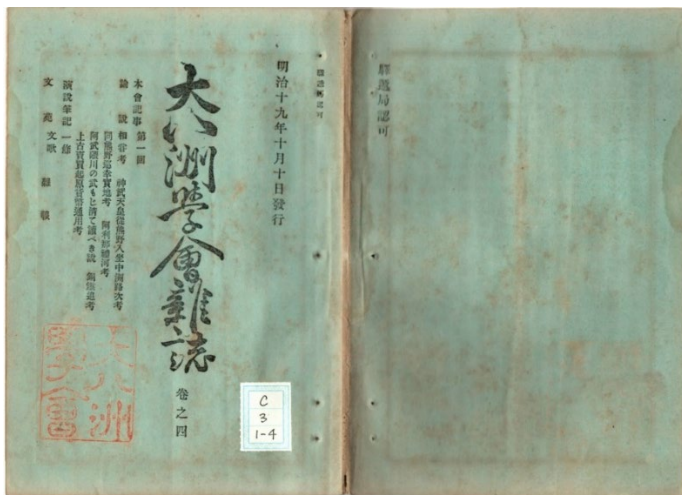


1948年7月15日号。『栽桑時報』は片倉蚕業研究所八王子支所が発行する業界紙。「桑都」とも呼ばれた八王子にふさわしく、桑の栽培に関する情報を提供している。終戦直後特有の粗悪な紙の質感はデジタル画像からもリアルに伝わってくる。

17. カテゴリ「d 図書/宗家」史料から

[dc-3-1-4] 大八洲学会雑誌 (1886)

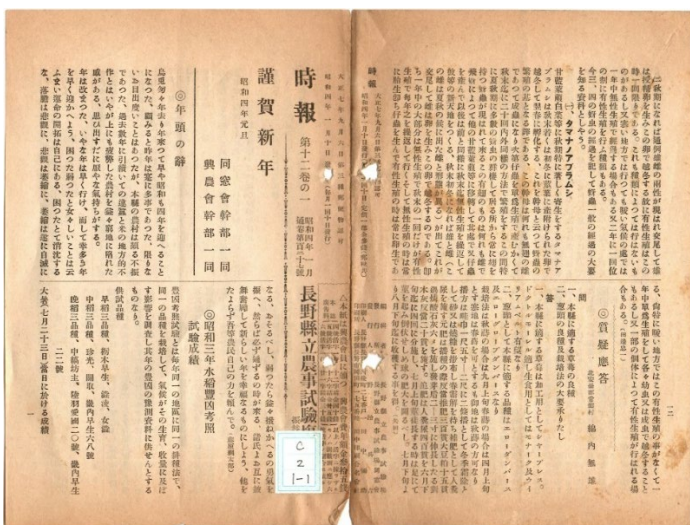
<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1180&p=54909>



1886年(明治19年)10月10日付。大八洲学会仮事務所発行。大八洲学会の第1回本会記事を掲載。当時の佐藤宗家当主であった藤本善右衛門縄葛(つなね)の教養人的な関心から同誌を購読したのではないかと思われる。

[dc-2-1-1] 時報通巻127 (1929)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1180&p=54921>



1929年1月10日付(通巻127号)。長野県立農事試験場同窓会発行。ローカルな発行物である点希少である。栽桑との関係から購読していたものと思われる。

[dd-2-55-3-6]信濃郷土双書第十篇日本アルプス(1929)

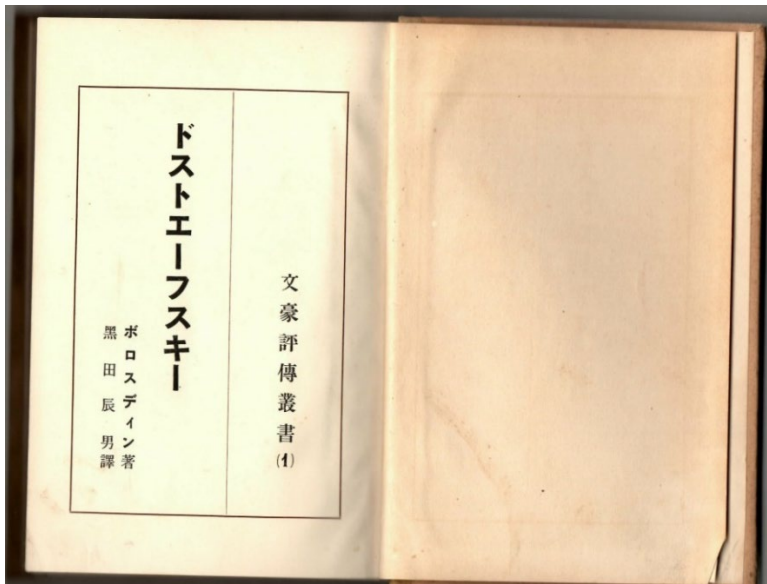
<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1180&p=55044>



河野齡蔵著、信濃郷土文化普及会(長野市)発行の非売品。長野県ローカルのマイナーな刊行物であり、当該図書の現物自体が貴重である。

[dd-3-123] ドストエーフスキー (1925)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1180&p=55019>



ボロスディン著、黒田辰男訳、新潮社発行。国会図書館NDL ONLINEからネット公開されているがマイクロフィルム原版のため質が悪い。当該デジタルデータが見やすい。

NDL版→<https://ndlonline.ndl.go.jp/#!/detail/R300000001-I000000598479-00>

18. カテゴリ「e 一紙文書」史料から

[e1908-21-1]金刺文献図北海道(一)大正十四年版(1925)

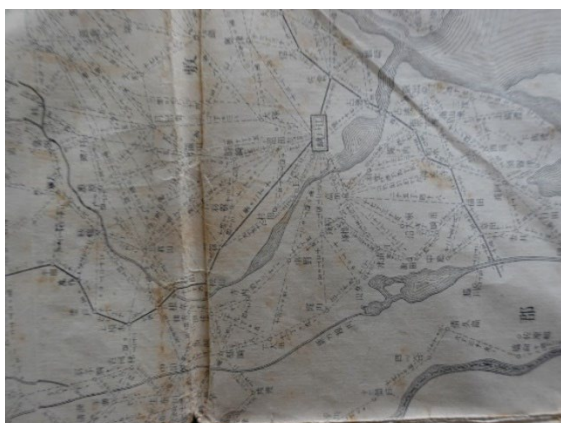
<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1181&p=42605>



藤本蚕業は全国の取引先等との関係からか、全国の分県地図が所蔵されていた。これらの地図は約 100 前の記録である点、社会の変遷を知る希少な情報源である。地図の細部を見ると北海道開拓の基盤の目状の道路がはっきりとわかる。

[e1908-21-6]茨城県管内里程図(1900)

<https://d-commons.net/fujimoto-arch?c=1181&p=42610>



鉄道や道路が敷設・整備される以前の交通手段は徒歩であったことから里程標となる地点間の距離は移動時間を知る大切な情報源であった。里程図の具体例として貴重な資料である。茨城県稲敷郡の江戸崎～小野間は、「一里・四丁・三」と記されている。

令和4年度長野県地域発元気づくり支援金事業「藤本蚕業資源活用事業」
藤本蚕業歴史館へのいざない ～藤本蚕業歴史館と所蔵史料の紹介～

【発行日】2023年3月31日

【編集・発行】藤本蚕業プロジェクト（代表：前川道博）

【事務局】長野大学前川道博研究室

〒386-1298 長野県上田市下之郷 658-1

TEL 090-22270-5074 メール maekawa@nagano.ac.jp

【ウェブサイト】藤本蚕業デジタルコモンズ

<https://d-commons.net/fujimoto-dc/>

